

ごあいさつ

看護学研究科では、日本福祉大学が追求する“ふくし”の力（ちから）を存分に活かしながら、複雑で多様な社会環境から発せられる保健・医療・福祉におけるさまざまな健康関連ニーズに十分に答えられる看護学の学問的専門性の確立に不可欠な科学的体系的研究を積み重ね、研鑽を深めています。そのため、新たな看護学の創造を探究し、社会還元のための学びを深め、専門性を活かす実践力や研究力または教育力を育めるよう、看護学の主要な7専門領域で構成して活動を展開しています。

養成人材像

看護学研究科では、複雑で多様な社会環境から発せられる保健・医療・福祉におけるさまざまな健康にかかわるニーズに対して本学がめざす“ふつうのくらしのしあわせ”（Well-being for All）をふまえ、看護学の専門的探究を通じて、学問的根拠をもって応えることができる研究力や教育力を有する看護人材の育成をめざします。

本研究科が求める人材像

本研究科は、本学の教育理念のもとに、自らが志向する看護領域の基盤となる知識・技術を有しており、看護学の視点から学問的根拠をもって看護課題に答えるための研究力の獲得に意欲を持つてのぞめる人を受け入れます。

具体的には次のような人材です。

- ①看護学の専門領域を深く学修する上で必要となる、基礎的な知識と技術を有している。
- ②看護課題に答えるための探究心が強く、研究力を獲得する意欲を有している。
- ③看護実践の経験を活かし、看護学の体系化と発展に貢献する意欲を有している。

本研究科の特徴

個々に応じた学習プログラムを組み立てることが可能です（長期履修制度の活用、オンライン授業等）。

教員VOICE

女性の生涯の性と生殖のヘルスケアについてより大きな社会的視野から理解し探究する

ウィメンズヘルス看護学は対象となる女性・母子・家族の健やかな一生を支えるために、マタニティサイクルにおける健康だけでなく、女性の生涯の性と生殖のヘルスケアについて探究する学問です。女性の高学歴化、就業率の増加、未婚化・晩婚化、少子化など女性の生き方の変化がわが国の未来と密接に直結しています。そのためウィメンズヘルスをより大きな社会的視野から理解し、

個々の女性とその家族の健康に及ぼす社会的要因を認識することが重要となります。そのため女性やその家族が生活している社会背景や保健・医療・福祉の動向をふまえた上で、女性自身が健康意識を高め、自らが意思決定し、エンパワーメントできるための看護の基本となる理論について理解を深め、専門職としての課題やそれに役立つ研究課題に取り組んでいます。大学院生の研究活動においては、学問的探求心から修士論文をまとめるまでの一連の過程を個々に応じた支援を重ねています。ウィメンズヘルス領域におけるヘルスケアの新たな役割についていっしょに考えていきましょう。



看護学研究科長
おかだ ゆか
岡田 由香教授

学位授与の方針

人材育成方針の下、所定の期間在籍し、教育目標達成のための教育課程により学修し、所定の単位を修得するとともに、修士論文審査ならびに最終試験に合格し、以下の要件を満たす者に学位（修士〈看護学〉）を授与します。

- ①看護学研究にかかわる基本的な理論や概念について深く理解し、科学的論理的思考をもって研究を遂行できる力を有している。
- ②看護実践を基盤とした自らの研究の遂行において、適切な倫理的判断に基づき、主体的・継続的に研究課題に取り組む力を有している。
- ③看護学についての高度な専門知識及び技能に関する学修や、研究から得られた成果を、質の高い看護実践に資する研究や教育に、広い視野をもって適用する力を有している。

教員VOICE

成人看護学・臨床看護学を探究する 臨床疑問を研究に！

成人看護学領域では、成人期にある人々とその家族が抱える療養上のさまざまな課題に対して、看護の視点から適切なアプローチ

方法を探究します。成人看護の理論や最新の研究成果を踏まえながら、臨床現場で直面する発達課題や健康問題について、具体的な実践方法を深く学びます。特に、急性期・慢性期にある成人の健康問題に焦点を当て、周術期看護、クリティカルケア、セルフケア支援、退院支援、再発予防といった看護実践に直結するテーマに取り組んでいます。研究活動では、院生さんが臨床や教育現場で抱く臨床疑問を研究課題へと発展させ、適切な研究デザインを用いて、次の実践に活かせるエビデンスの創出をめざしています。それらの一連の研究のプロセスを個々の関心や背景に応じて支援します。日々の実践の中で感じている違和感や課題を、研究というかたちで言語化してみませんか。次の実践につながるよう共に考えていきましょう。



看護学研究科
おのの あきこ
大野 晶子教授